

HIRATSUKA CITY LIBRARY

(<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/library/>)

き い ふ



2002年12月

第52号

中央図書館 TEL(31)0415、 北図書館 TEL(53)1232、 西図書館 TEL(36)3555、 南図書館 TEL(21)3080

内田 魯庵(1868～1929)

「銷夏日記」にみる平塚



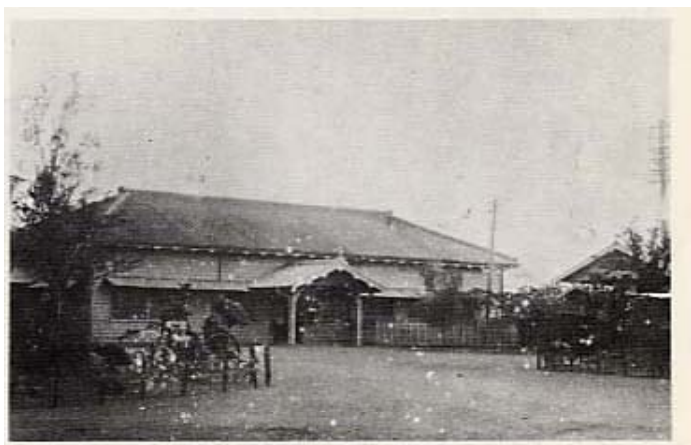
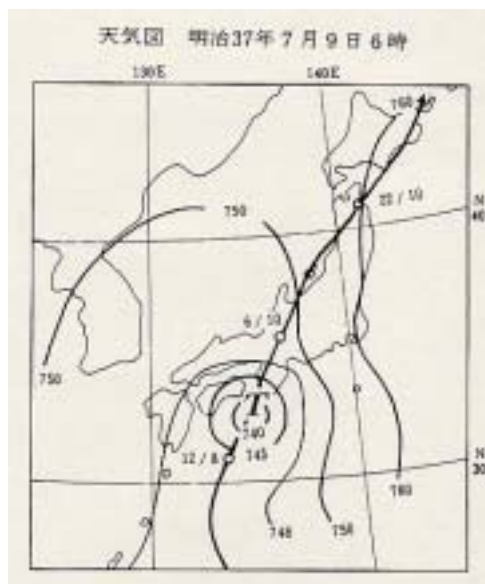
↑『内田魯庵全集 3』ゆまに書房刊より

1904年(明治37)7月13日、評論・翻訳・小説家の内田魯庵は、子供の転地療養を医師からすすめられ、新橋駅午後12時30分発の汽車に乗り友人の所有する沼津の家に一家全員で行くことになる。この時の日記が「銷夏日記」である。ところが、7月8日より台風が紀伊半島に上陸し、中部地方から佐渡ヶ島西を通り東北、北海道へと通過した。

さらに、台風通過後の11～12日にかけて雷雨・大雨があり、酒匂川、相模川流域での被害が甚大となる。厚木では484ミリ、松田では423ミリの雨量を観測し、死者7人、行方不明1人、床上浸水878戸、橋梁流失339ヶ所等を記録した。そして、この大雨により東海道線の花水川鉄橋が傾斜し、平塚大磯間は不通となり、魯庵一家は、平塚駅で下車し、徒歩および乗合馬車にて大磯駅へ行くことになる。

この作品の中で当時の平塚の様子、特に乗合馬車(落語家・橘家圓太郎が乗合馬車のラッパ音をまねしたところ人気を博し、以後乗合馬車のことを「圓太郎馬車」と呼んだ)が駅前に百数十台あるが、東京のものに比べて乗りごちが悪いとある。さらに、東海道に面した家は、皆傾斜しており、東海道線が全通したため、旧平塚宿は、衰退しているとある。

以下、「銷夏日記」の一部を掲載します。



↑明治43年(1910)の平塚停車場『平塚市制40周年記念誌』

←天気図 明治37年7月9日6時 「神奈川の気象百年」

七月十三日

……平塚にて下車す。停車場わきで一人の肩を叩くものあり。只見れば森辦次郎氏。森氏には此月の初め丸善書樓にて面會し十日沼津へ行く由を云ひたりしに、森氏も交近日廣東へ赴任する筈なれば當日同行すべしと約束したり。然るに余の出立は遷延したれば其まゝになしをりしに爰にて氏に邂逅せんとは誠に思ひ掛けざりき。一つ汽車に乗込みしなれ共氏の室は余が乗れるものの後續車なりし如し。

斯くて、余はともかくも停車場前の茶やに行き四輛の車を命じたりしに當時ステーションに百數十輛あれども此俄の出來事の爲め不足となりて中々に得ず。現に昨日の如き五時間待たしたりといふ。我が一行は大に閉口し斯くて爰に待たんよりは兎もかくも荷物だけなりと大磯に送る事に決し、先ず六個を托したり。その内森氏は車一輛を從へて來れり。我が一行の一輛をだも得ざるを見て即ちその車を好意もて譲り受け、家妻及小兒兩人を乗らしめ余等は行けるところまで歩行すべしと決心し、斯くて磯部氏し小婢とは先づ行き、森氏と余とはおくれ茶屋を出て舊東海道筋をブラ 出掛けたり。凡そ二町を行ける時乗合馬車の來れるに會ひたれば、一輛を借切つて先づ漸くに歩行難をのがれたり。

近時の東京式の乗合馬車は漸く馬車鐵式に比して又圓太郎先生の眞面目を見ず。平塚のは之と變りて踏掛臺の僅に爪先を支ふるに足る。腰掛の幅狭くして漸く尻を据ゆるに足る。柱のゆがみたる、天井蓋ひのカンバスの煤けて眞黒になれる、骨節立ちたる疲馬の悄乎たる動物虐待防止會員をして眉顰きしめるに足る。車のガタクリ乎たる一廻轉毎にギツクリンシヤクリする。鄙びたる喇叭の音と隆々たる鞭の聲の獨り天地を我が物顔にする、少くも三十年前に遡りたる心地す。而して驛路に沿へる家は皆傾斜して巧ちかゝりたり。東海道は最も要樞の大道なれども鐵道早くより全通したれば、宿驛の衰へたるはいふまでもなく、驛と驛との間を行くは土地の者ばかりなれば今の東海道は見る影もなし。返つて中仙道木曾街道に如かざる也。凡そ十數町を行きし時磯部氏と小婢とに追付きたれば、即ち兩人を我が車に乗せて行く。

大磯にて待つ事二時間、五時五十分發車す。……

なお、この「銷夏日記」は、後に1932年（昭和7）9月齋藤昌三・柳田泉共編による「魯庵隨筆紙魚繁昌記」（書物展望社）に載録された。

次に、当時の新聞「貿易新報」（現、神奈川新聞）にみる台風被害について紹介すると以下のようです。

大磯地方被害の大略

「貿易新報」明治37年7月14日

再昨夜七時頃より覆盆の降雨に雷鳴加はり一昨朝迄降続きたるため諸川前日來の増水に一層増し相模川筋中郡太田村字田村の堤防切れ大野村字四ノ宮八幡は一面に家屋田畑浸水し延て平塚町新宿柳町床上五尺位浸水せり其の戸数五十戸床下三十戸西仲町床上廿戸床下十戸新宿床下廿戸小中村は全村浸水豊田村三百戸殆んど全村浸水金田村入野凡六十戸浸水同長持四十戸浸水又花水川は東海道を距る上流三町許りの所の堤防四ヶ所切れ古花水川に流れ入り田畑一帶に押し流し為に上平塚全部浸水し又大磯にて一戸流失三戸浸水此等は屋根襖まで浸し居れり平塚町裏通りの田畑へ馬入川流れ入り花水川と流れを一ツにして何れの流界かは判然せざる有様にして其れが為め花水川の水勢を増し同川鉄橋ビヤ一は一昨午前六時四十分大磯駅発上り列車後れて七時五分發車通過すると同時に東南に一尺三寸餘傾き実に危険を犯して通過せしも其後不通となりたり大磯以西は鈴川まで大磯以東は新橋まで定期時刻の汽車運転あるも大磯平塚間は徒歩するをを要するに依り花水川東の浸水田地の上は一昨日正午より漁船を渡船に用ひて往来し居れり相模川

即ち馬入川花水川沿岸の家屋田畑は悉皆浸水し居れり花水川鉄橋の仮工事は如何に取り急ぎても十三日夕刻頃ならでは開通の見込なしと云へり今回の如き水害は四十年以来なき大水なりと

(参考文献)

「内田魯庵全集」 5	ゆまに書房	1984年
「明治文学全集」 24	筑摩書房	1978年
「近代文学研究叢書」 31	昭和女子大学	1970年
「神奈川の気象百年」	日本気象協会横浜支部	1996年
「神奈川県気象災害誌」	神奈川県	1971年
「図説明治事物起源事典」	柏書房	1997年
「現代落語事典」	光風社出版	1988年
「落語人物事典」	社会思想社	1978年

おすすめの本

『忠臣蔵討ち入りを支えた八人の証言』

中島 康夫／著 青春出版社 2002 年刊

師走の声を聞くと忠臣蔵である。また、今年は、本所松阪町の吉良邸討ち入りから 300 年にあたる。

さて、この本は、元禄 15 年 12 月 15 日の討ち入りに至るまで義士たちを陰から支えた 8 人について紹介されている。

刃傷の取調べにあたり好意的な態度で臨んだ目付・多門伝八郎、義士の遺児たちの減刑嘆願した内匠頭正室・瑤泉院、義士たちを金銭面で援助した商人・綿屋善右衛門など。

また本書には、「去年三月匠頭儀…」で始まる討ち入り時の口上書が記載され、さらに巻末には、四十七士切腹時の年齢、戒名、介錯人の一覧表がある。



『旅』 2002 年 12 月号 JTB



この雑誌は、明治 29 年 (1896) 小田原から熱海の海岸沿いに開通した「豆相人者鉄道」を特集記事としている。25.6km の距離を長さ・高さ 2m、幅 1.5m のトロッコのような車両に 6～8 人乗せ、車夫 2～3 人が押し進む人力鉄道である。この人力鉄道は、明治 41 年 (1908) に軽便機関車に変わり大正 11 年 (1922) 国鉄熱海線が小田原～真鶴間に開通し、翌年の関東大震災に



より大正 13 年 (1924) 3 月この鉄道は、その幕を閉じた。そして昭和 9 年 (1934) 丹那トンネル完成により、熱海線が東海道本線に編入され現代に至る。

熱海、湯河原、小田原の豆相三都の町の魅力と人車鉄道の歴史を交えて紹介している。また類書としている 2002 年に「幻の人車鉄道」(伊佐九三四郎／著) が河出書房新社より刊行されている。

今年もたくさんの皆様に

ご来場いただきました

第5回を迎えました本のリサイクルフェアが、10月31日（木）に開催され、多くの市民の皆様にご来場いただき、盛況のうちに終了いたしました。

当日は、1,300人を越える方の入場があり、約21,000冊の本をお持ち帰りいただきました。



年末年始の図書館休館日のお知らせ

年内は、12月28日まで開館します。新年は、1月5日から開館します。

12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7	1/8
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○

○印・・・開館日 ×印・・・休館日

特別整理期間のお知らせ

	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
中央図書館	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
北図書館	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
西図書館	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
南図書館	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×

	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
中央図書館	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
北図書館	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
西図書館	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
南図書館	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×

	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
中央図書館	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○
北図書館	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
西図書館	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
南図書館	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○

○印・・・開館日 ×印・・・休館日

各館の連絡先

中央図書館 TEL(31)0415、北図書館 TEL(53)1232、西図書館 TEL(36)3555、南図書館 TEL(21)3080